

第6学年1～5組 図画工作科学習指導案

指導者 松久 公嗣（福岡教育大学）

指導者 6年各組担任（赤間小学校）

1:秦, 2:萩尾, 3:大坪, 4:辻野, 5:岩崎/水田

補助者 福岡教育大学学生

- 1 題 材 「色々な私 未来を夢みて」（スチレン版画＋掛け軸制作）卒業記念品
— 宗像市立赤間小学校と福岡教育大学との連携による図工科授業 2007—

※ 赤間小学校と福岡教育大学との連携に関して

これは平成18年度より継続する地域連携プロジェクトである。単なる「出前授業」ではなく、松久が進める科研費採択プロジェクト「伝統技術の伝承と産学連携を融合した教育者育成プログラムの構築」に関連して、小学校の現職教諭と教育大学の教員ならびに教育大学に在籍する学生が協働して授業を創り出すことを目的とする。

昨年同様に、児童が個別に持ち帰る卒業記念品として、小学校の思い出や将来の夢と自画像を組み合わせてスチレン版画で表現した後に、作品を自宅に展示可能な掛け軸に加工する。昨年度の実績をふまえて、指導案作成時に改善点を改良し、より質の高い授業を目指す。また、今年度は現職教諭と大学教員、大学生を交えた研修会を必要に応じて開催し、現職教諭が担当する授業回を増加（4/12時間）すると同時に、専門的な技能と知識の強化を図る。特殊な機材や用具の充実ならびに専門技術の指導を教育大が担うことで、共に学ぶことが出来る教育の場を整備する。

2 指導観

- （教材観） 本題材は、スチレン版画による自画像制作と、作品に合わせた掛け軸制作という2つの単元から構成される。

スチレン版画による制作では、小学校生活の思い出や将来の夢を形にして、自画像と組み合わせた個性的な画面を構成する過程で、これまでの自分とこれからの自分を想像し、今の自分を見つめ直す。

掛け軸制作では、日本の伝統文化の1つである掛け軸の形式を学び制作することで、暮らしの中の作品として自分の作品を捉えることが可能となり、デザインされた造形作品や文化を理解し、美術を身近に感じることを出来る感性の育成が期待できる。

そのようにして表現された作品は、互いに鑑賞することで個々の個性を理解し、友だちの個性を認め合う態度の育成へと繋がっていくだろう。そして、掛け軸という伝統的な展示形式を応用し、作品を完成させることで、生活空間での作品のあり方を意識し、新たなコミュニケーションが生み出されていくことが期待できるのである。

- （児童観） 児童は、福岡教育大学が作成した掛け軸キットを用いた書写制作からの掛け軸制作体験を有している。また、その後に行った掛け軸の鑑賞授業によって、日本の伝統文

化としての掛け軸を学習しており、社会や国語（書写）と総合的に関連した知識の連携と制作体験による知識の強化が行われている。図工の授業では、木版を経験しており、表現手段としての版画技法に対する理解は深い。また、絵画制作を通して、ものをよく見る態度が備わっているといえる。ただし、発展的な自己表現に関しては他の小学校同様にその経験は少なく、卒業にあたって小学校6年間で振り返り、将来の夢を形や色に残すことで、新たな自己発見へと繋げることは意義深い。

- （指導観） そこで、本題材では、これまでに培ってきた感性や基礎的な技能を一体化した複合的な作品制作を行う。自分と向き合ってみ直す体験をスチレン版画に表現することで、未来への希望や夢を考えるきっかけとしたい。木版画とは異なるスチレン版画の手軽さは、卒業後も経験が可能なものであり、生涯教育に繋がる表現活動としたい。さらに、インクの偶然性やパーツの構成によって様々に変化する画面を感じ取ることで、自分ならではの創造的な表現に結びつける。

掛け軸制作では、掛け軸キット制作での経験を活かして、さらに高レベルの制作を期待したい。これまでに習得した基礎技能に加えて、新しい技能の習得だけでなく、それらを駆使したデザイン能力の育成と工作能力の育成が望まれる。完成した作品は、卒業記念品として自宅に持ち帰るため、作品を通して身の回りの人たちとのコミュニケーションが広がり、同時に、生活空間に飾ることで、身近なものの美に気付くことの出来る感性の育成に繋がるものである。自分の作品や友だちの作品、掛け軸の参考作品を目にし、手に取って感じる鑑賞を行うことで、制作を通して培った感性や技能の印象を強化したい。生活様式から生まれた必要性や合理性に基づいた「用の美」を学ぶとともに、生活に密着した美を再発見する視点を形成する。このように、身近に存在する美について考え、大切にしていこうとする態度を育てることは、現在と未来を考える上で大変意義深いと考える。

3 目 標

- 小学校の思い出や将来の夢を想像することで、今の自分と向き合い、意欲的に組み合わせることで、個性的な主題を深化することの出来る能力を育てる。
- 線による表現について理解を深め、顔やモチーフの形から発想した動きの表現や、具体的な形を線に抽象化していくという発展的な学習に向けた関心を高める。
- スチレンペーパーや水性インクという素材を活かした表現を工夫し、パーツの形体や大小を考慮した組み合わせ方や色合いの構成を構想出来るようにする。
- △ 構想力を養い、感性を見越した計画を想像し、素材や手順に合わせた基礎技能を習得する。
- △ 伝統的な形式について学び、職人の仕事について理解を深めながら、作品や用具、画材を大切に作る気持ちを身につけることが出来るようにする。
- 完成した作品を通して、家族や友だちと感動を共有しコミュニケーションを積極的に行うことの出来る豊かな情操を養う。
- 日本の文化について体感することで、博物館や美術館での鑑賞を能動的に行うことの出来る態度を身に付ける。

4 計 画 平成 19 年 12 月 4 日 (火) ～平成 20 年 2 月 6 日 (水)
1 2 時間 (2 時間×6 回)

- 1 : 自画像制作①・・・導入・構想
- 2 : 自画像制作②・・・下描き・転写・版の作成
- 3 : 自画像制作③・・・刷り (完成)
- 4 : 掛け軸制作①・・・構想・切り継ぎ・総裏プレス
- 5 : 掛け軸制作②・・・軸棒, 八双付け・鈎付け
- 6 : 掛け軸制作③・・・紐付け・巻き方講習・鑑賞

5 準 備 表装プレス機, こてセット, 掛け軸作品の他 用具・画材一式 (別紙参照)

- 平成 19 年 6 月 6 日 (水)・・・打合せ (第 1 回)
- 平成 19 年 6 月 29 日 (金)・・・打合せ (第 2 回)
- 平成 19 年 6 月 ～ 7 月・・・ミニ軸制作 (完成後教室に展示)
- 平成 19 年 7 月 30 日 (月)・・・スチレン版画等実技研修会 (3 時間)
- 平成 19 年 8 月 22 日 (火)・・・打合せ (第 3 回)
- 平成 19 年 9 月 20 日 (木)・・・鑑賞授業
- 平成 19 年 11 月 21 日 (木)・・・打合せ (第 4 回)・最終確認

6 費 用 児童 1 人あたり 8 0 0 円を材料代に充てる (計 : 148, 000 円)

■ 購入予定品目

- 1 : 版画インキ水溶性 (7 色)
- 2 : バレン (不足分 : 2 0 個)
- 3 : ローラー (不足分 : 2 0 個)
- 4 : トレーシングペーパー (B 4 : 2 0 0 枚)
- 5 : スチレンペーパー (5mm 厚, 半紙判 1 9 0 枚)
- 6 : 版画用紙 (白・鳥の子, 半紙判 各 5 0 0 枚)
- 7 : 軸棒 (9 分 : 1 9 0 本)
- 8 : 八双棒 (1 9 0 本)
- 9 : 軸先 (プラスチック製 : 白・黒 各 1 5 0 幅) : 使用分のみ請求
- 10 : 掛紐 (4 色, 小巾, 9 0 cm : 各 7 0 本)
- 11 : 鈎 (ネジ式, 菊座金 : 5 0 0 個)
- 12 : 八双シール (2 0 0 幅)
- 13 : 裏打紙 (シルキー 4 0 : 1 巻)
- 14 : ミューズコットン (9 0 g, 1 0 色 各 4 8 組) : 不足分
- 15 : 赤鉛筆 (不足分 : 1 ダース)
- 16 : 鏡 (A 4 サイズ : 40 枚 セリア 100 均)

[別紙] 準備する機材・用具・画材など

小学校（または児童各自）で準備するもの

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 鉛筆 | <input type="checkbox"/> 消しゴム |
| <input type="checkbox"/> アイマスク（1クラス分） | <input type="checkbox"/> 定規（10 cm程度） |
| <input type="checkbox"/> マジック（名前書き用） | <input type="checkbox"/> 新聞紙 |
| <input type="checkbox"/> 粘土ヘラ（1クラス分） | <input type="checkbox"/> 輪ゴム |
| <input type="checkbox"/> 乾燥棚 | <input type="checkbox"/> トレー |
| <input type="checkbox"/> 版画インキ水溶性（7色） | <input type="checkbox"/> はさみ（40本） |

大学で準備するもの

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 裏打紙（シルキー40：1巻） | |
| <input type="checkbox"/> 軸棒（9分：190本） | <input type="checkbox"/> 八双棒（190本） |
| <input type="checkbox"/> 掛紐（ 4色 ，小巾，90cm： 各70本 ）190本 | <input type="checkbox"/> 鉋（ネジ式，菊座金：500個） |
| <input type="checkbox"/> ガイド（鉋付け用：40個） | |
| <input type="checkbox"/> 両面テープ（4mm：表装用：40巻） | <input type="checkbox"/> 両面テープ（5mm：ナイスタック20箱） |
| <input type="checkbox"/> 八双シール（200幅） | |
| <input type="checkbox"/> 軸先（プラスチック製：白・黒 各 150幅 ） | |
| <input type="checkbox"/> プレス機（2台） | <input type="checkbox"/> こてセット |
| <input type="checkbox"/> 延長コード（2本） | <input type="checkbox"/> 軍手（3組） |
| <input type="checkbox"/> ミューズコットン（90g，10色 各48組） | <input type="checkbox"/> 布ガムテープ |
| <input type="checkbox"/> 版画用紙（白・鳥の子，半紙判 各500枚） | <input type="checkbox"/> ゴミ袋（大） |
| <input type="checkbox"/> スチレンペーパー（5mm厚，半紙判 190枚）・・・ミラボード | |
| <input type="checkbox"/> トレーシングペーパー（半紙判：200枚） | <input type="checkbox"/> 下描き用紙（半紙判：200枚） |
| <input type="checkbox"/> カッターナイフ（大，番号記入：40本） | |
| <input type="checkbox"/> カッター替え刃 | <input type="checkbox"/> ハンドソープ |
| <input type="checkbox"/> 金定規（30cm：40本） | <input type="checkbox"/> 金定規（60cm：40本） |
| <input type="checkbox"/> アクリル定規（2本） | <input type="checkbox"/> 重し（2個） |
| <input type="checkbox"/> バレン（不足分） | <input type="checkbox"/> ビニル袋（児童数） |
| <input type="checkbox"/> 接着剤（木工用セメダイン：20個） | <input type="checkbox"/> キッチンペーパー（12巻） |
| <input type="checkbox"/> カッティングマット（小：40枚） | <input type="checkbox"/> カッティングマット（大：8枚） |
| <input type="checkbox"/> マット用ボード（45×60，8枚） | |
| <input type="checkbox"/> 目打ち（番号記入：40本+2本） | <input type="checkbox"/> ボールペン（48本） |
| <input type="checkbox"/> 赤鉛筆（40本） | <input type="checkbox"/> マジックセット（31セット） |
| <input type="checkbox"/> ビニルテープ（区域設定用） | <input type="checkbox"/> 時計 |
| <input type="checkbox"/> 鑑賞掛け軸作品 | <input type="checkbox"/> 各種参考作品 |
| <input type="checkbox"/> マグネットフック | <input type="checkbox"/> 矢筈 |
| <input type="checkbox"/> インク混ぜ用トレー（各机3個×6） | <input type="checkbox"/> インク小分けボトル |
| <input type="checkbox"/> 小分けボトル収納ケース（各机1個×6） | <input type="checkbox"/> タオル |
| <input type="checkbox"/> ポストイット | <input type="checkbox"/> 鏡（40枚） |

- 1 本 時 平成19年12月 4 (火)・5日 (水) 1・2／12時間
4日 (火)・・・1・2校時：1組 (秦) , 3・4校時：3組 (大坪)
5日 (水)・・・1・2校時：2組 (萩尾), 3・4校時：4組 (辻野), 5・6校時：5組
3階図工室 (岩崎/水田)

2 主 眼

- (1) 小学校の思い出や将来の夢を想像することで、今の自分と向き合い、意欲的に組み合わせて表現することで、個性的な主題を深化することの出来る態度を育てる。
- (2) 見慣れた顔を再度注意して見つめることで、形や色・質感の不思議さに気づき、顔に対する関心と自画像として表現する意欲を高める。
- (3) 時間を制限することで、自然に抽象化・単純化することを体験させる。
- (4) 目隠しをした自画像を描くことで、写真のように描くことが良いという固定観念を崩し、個性的な表現の可能性を持った具象表現について理解を深める。
- (5) 想像した世界と顔を組み合わせることで、発想力や構成力を育成し、自分と社会などの身の回りの環境との関わりを意識して感じることの出来る感性を育てる。

3 準 備

小学校 (または児童各自) で準備するもの

☐鉛筆 (各自)

☐消しゴム (各自)

☐アイマスク (1クラス分)

大学で準備するもの

☐参考作品 (版画作品)

☐参考作品 (版画の版)

☐参考作品 (下描き作品)

☐参考作品 (転写用作品)

☐赤鉛筆

☐マジックセット

☐ボールペン

☐トレーシングペーパー (半紙判)

☐下描き用紙 (半紙判)

☐ビニルテープ (区域設定用)

☐時計 (またはタイマー)

☐鏡 (1クラス分)

学習活動・内容	指導上の留意点	形態	配時
1 あいさつ・出席確認 本時のめあてと内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">色々な私 未来を夢みて</div>	<div style="text-align: right;">※移動</div> ・本時の学習の方向性を掴むことが出来るように、本時学習のめあてを提示する。	一斉	(5) 5
2 導入 (1)自分の顔を鏡を用いてじっくりと観察する。※2分 (2)鏡を見ないで、記憶にある自画像をボールペンで描く。※2分 (3)鏡を見て、見落としていた部分をしっかりと描く。※3分 (4)「目隠しをして描く自画像」※10分 (5)交代して同じく仕上げる。※10分	・顔の形や目の形など形を中心に観察し、手で触るなどして質感についても同時に確認する。 ・鏡を伏せて、よく観察した記憶をもとに描写させる。時間を細かく伝えて意識させる。 ・再度、輪郭や目のふくらみ方や鼻の表し方に注意しながら、表現の工夫と描き込みを促す。 ・説明後、隣同士の1組で制作を行う。 ・3分、5分、7分と時間を伝え、早く進む児童には色々なモチーフを加えることを追加指示する。 ※進度によっては、8～9分に変更する。	一斉 一組	3 4 4 12 12
3 発想～構想（下描き） (1)以下の3点のいずれかから発想したものを時間内にそれぞれ10個書き出す。※各3分 ・小学校の思い出 ・自分の好きなもの ・将来の夢 ※参考作品 (2)発想したモチーフと組み合わせる表情を考える。 ※参考作品 (3)発想した表情を、鏡を見てじっくりと描写する。	・言葉と同時に、簡単な絵（モチーフ）に表すことを提案する。 ・指導者の体験や記憶をもとに、発想の広がり誘導する。 ・数名に発表させ、友だちの意見を理解したり、自分に当てはめたりすることで新たな発想や気づきに結びつける。 ・言葉やモチーフから連想する表情をイメージし、鏡で確認する。 ※描き易さ（時間）にも注意する。 ・前に行った活動を思い出して、絵に表現する際の注意点を幾つか指摘する。	一斉 一斉 一斉	15 5 20
4 まとめ	・活動全体を振り返り、次回の下描き完成に向けて、自己評価を行う。 ・さらに良くする工夫を考えてくるように指示する。		5